



どうして???

2万円以上したイタリア製の真っ赤な綿のシャツ。家で手洗したら色がさめてしまった。

「クリーニングドクターの豆知識」 国が違えば品質も違う???

その11

皆さんは「衣類の品質」と聞いて、何を真っ先に思い浮かべますか？

生地・デザイン・仕立て・縫製・ブランド・その他…

人それぞれでしょうが、今回はその中でも「色」に絞って取り上げてみます。

先の赤いシャツの話では、日本国においてほぼ100%の人が「品質に問題あり！」と思うでしょう。

でも、え？「日本国において」ってどういう意味？そこが今日の話です。

夏場に湿度の高い日本では、当然多量の汗をかきます。特にシャツなどの直接肌に触れる衣類は、一度着たら洗う必要があります。洗うたびに色が落ちては話にならないので、染色の際、繊維にしっかりと色が定着する方法で染めます。一般的には**染色液の温度が高いほど、定着性は高まります**。染色の強さを専門的には「染色堅牢度」と言います。そう、日本の衣類は染色堅牢度が高いのです。そしてそれが我々にとっての普通の**品質**です。

ただし、**高い温度で染めるほど「色が濁りやすい」**という問題がでます。詳しいことは不勉強ですが、特に明るい色目のきれいな発色が難しくなるようです。デザイナーが「こういう色を出したい！」と思っても、染色堅牢度を考えるとできない場合がある、ということです。

では日本以外の国。例えば地中海沿岸の南ヨーロッパの国々ではどうでしょうか？

これらの地中海性気候の国々では、夏に湿度が低く、あまり汗をかきません。雑誌のアンケートで見たのですが、向こうの人はTシャツを1度着ただけでは洗いません。3回位は着るようです。Tシャツでそうですから、上着だと2、3シーズン洗わなくても不思議ではありませんね。汗をほとんどかかないなら、特に洗う理由もないのでしょう。よく「日本人は世界的に清潔な民族だ」みたいに言われますが、これは単に湿度から来る問題にすぎません。自分たちを特別視することは、物事の本質を見失う可能性があります。

つまり彼の地では「染色堅牢度」は日本ほど重要な品質ではなく、「色合い・発色」が重視されます。

特に日本でも人気の高い、「G」や「H」で始まる高級ブランドはそうです。いかに微妙な色合い・きれいな色を出せるか、それが品質なのです。日本より高緯度で、日光が横から差す感じ？の地域ではきっとその色合いが生きてくるのでしょう。染色堅牢度を考えなければ可能な事です。それにああいう服を身に着ける階級の人々は、服に耐久性を求める必要がありません（お金があるから！）

「国が違えば品質も違う」大体わかってもらえたでしょうか。これは気候風土に根差したもので、どちらが正しいとかの問題ではありません。重視する順序が違う。ただそれだけです。それだけですが、問題は起こります。向こうの品質で作られた服、特にエルメスなどの「高価な服」を日本人が着て洗ったら「こんな色じゃなかった」「この服は高かった。そんなスグにダメになるはずがない」となります。そして話は消費者センターに持ち込まれます。センターの方々のご苦労は、並々ならぬものでしょう。皆さん、おしやれを楽しみ際には、ぜひ今日の話は頭に留めておいてください。「高価＝高品質」「高価＝長持ち」とは限らないのです。



古川クリーニング

宮崎市瀬頭2-2-14

お問い合わせは

0985
22-7808